

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第38号—

令和4年1月31日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

長崎県にも「まん延防止等重点措置」が適用されました

長崎県にも「まん延防止等重点措置」が適用され、学校でも更なる緊張感を持って感染拡大防止に取り組んでいるところです。平戸市内においても感染拡大が見られることから、学校では、先日21日（金）に、改めて「学校における新型コロナウイルス感染症対策について」を発出し、学校と家庭とが協力してその対策を徹底し、子供たちの命・健康を守るよう努めています。また、感染防止の観点から、「まん延防止等重点措置」の期間中の下記の学校行事やPTA行事を変更しています。

行 事	開催予定日	開催	対 策
授業参観・学級懇談会	1月21日（金）	中止	書初め作品展は実施（2月末まで展示を延長）
お魚教室	2月 1日（火）	延期	3月4日（金）に延期して実施。6年生のみ参加
入学説明会 一日入学	2月 3日（木）	延期 中止	2月24日（木）の授業参観日に延期。一部内容変更 新入学児童が参加する一日体験入学は中止
PTA 理事会	2月 3日（木）	延期	2月17日（木）に延期
読み聞かせ・クラブ等		中止	学校外部からのボランティアの皆様の活動は全面中止

多様性が認められる学校を目指して

緊急事態宣言下で開催された東京五輪は、日本人アスリートたちが、史上最多となる金27個を含む58個のメダルを獲得しました。その中でもひとときわ印象に残ったのは、新競技スケートボード「女子パーク」です。私が、このスケートボード競技で特に魅了されたのは、「チームのため」「国のため」といった意識でなく、自然体で競技に参加するアスリートたちの姿です。国籍も年齢も採点の結果も関係なく、お互いに声を掛け合い、笑顔を変えて仲間をたたえる選手たちの姿に魅了されました。失敗すれば終わりの採点競技、しかも、初めてのオリンピック。緊張する要素は数多くありますが、選手たちには悲壮感がありませんでした。ただただシンプルに、自分が練習してきた最高の技を披露することが目的だったのでしょ。採点競技においては、技の難易度を下げ、失敗を回避することでメダルを狙う作戦もあります。しかし、ある選手は果敢に限界の技に挑みました。結果、失敗してしまいましたが、ライバルたちは近寄って抱擁し、そのチャレンジを称賛しました。これに本人は泣きながらも笑顔、ガッツポーズも見せていました。ある選手の言葉です。

「大事なものはメダルや記録ではなく、誰が最高にクールなスケートボードを見せられるかです。正しいスケートも間違ったスケートありません。観客は好きなように感じればいい。自分がこの大会で最年長のスケーターだったことを誇りに思います。スケートボード界はもっと多様です。僕よりも年上でまだまだ現役の人もあります。年齢も性別も、それぞれの個性も、あらゆる点で多様なのがスケートボードです。」

多様性（ダイバーシティ）は、人間には個性や特性があって、その違いをお互いに認め、活かすことで、世の中が元気になり、社会が発展していくという考え方です。一人ひとりの個性が力を発揮する社会は、全体として強い力をもつことができるのです。

多様性の手本のようなスケートボードを取り巻く環境が、10代の選手たちが伸び伸びと力を発揮し、素晴らしい結果を残した最大の理由なのかもしれません。

「みんな違ってみんないい。」

こんな多様性を認める津吉小学校を目指します。

2月行事予定

- 7日（月）代表委員会
クラブ活動（3年生見学）
- 11日（金）建国記念の日
- 14日（月）中学校入学説明会
- 17日（木）PTA 理事会
- 22日（火）読み聞かせお礼の会
- 23日（水）天皇誕生日
- 24日（木）授業参観・懇談会
入学説明会・2分の1成人式
- 28日（月）クラブ活動

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多くと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せず、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒や学生が、必要となる力を身に付けて等いことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思っております。

令和二年八月

文部科学大臣 萩生田光一